

科目名	教育評価論特講	担当者	トシマ ユタカ 外島 裕	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>教育は、私たち一人ひとりが有している多様な可能性を引き出して伸ばすための、他者が本人へはたらきかける援助活動といえるでしょう。教育測定は個人の心的・行動的特性を客観的・数量的に把握することを主な目的としてきたのに対し、教育評価は教育・育成をうける個人を全人的な立場でとらえるため、その対象範囲は広範囲にわたります。今年度のこの科目では教育評価の視点を応用し、青年後期から成人期を対象として、人の心的・行動的特性を把握する心理学的方法と、その活用、および、能力開発の方法を学修し考察することを目的としています。初等中等教育での課題は直接的対象とはしません。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 人の心的・行動的な特性を把握する心理学的方法、すなわち心理検査、行動観察等の方法の基礎を理解し、その限界と妥当な活用について、教育評価、能力開発の視点から実践の要点を自ら考える能力を養う。すなわち教育評価、能力開発に関する専門的情報に基づき、論理的・批判的思考力を引き出し、全人的な可能性を育むための問題を把握して、解決策の提案力を強化する。この背景として、評価対象者の可能性を信じる倫理観の重要性について自ら学び自覚を深めることを学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 教育評価の対象となる、認知的能力、非認知的能力、行動傾向などの心理学的概念が説明できる。心的・行動的特性を把握する心理検査等の心理学的方法の基礎概念、種類、活用方法と限界が説明できる。 社会的場面で効果的な問題解決に関連の深い行動傾向について、どのように行動開発を試みるのか、その方法について説明できる。 特に、成人を対象として、組織における個人の可能性を育む援助関係、組織の制度の基本について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1つのレポートの作成に関して、基本教材および参考文献の学修に30時間以上、作成・提出に20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングは、主体的参加的に深く考えをすすめることである。学修に際し、質問等ある場合には申し出ることを期待する。なお、可能な場合には面談による議論もおこなう。</p> <p>【学修方略 (LS)】 指定された基本教材、および参考文献を学修しレポートを作成する。質問等ある場合には適宜科目担当者に質問をおこなう。なお、受講者の研究課題によっては、受講者との意見交換に基づいて、授業内容の細部を変更することがある。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題1の草稿は7月末、課題2の草稿は8月末を目途に提出できるよう学修をすすめる。課題1および課題2のいずれも最終稿は9月中旬を目途に提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題1の草稿は11月中旬、課題2の草稿は12月中旬を目途に提出できるよう学修をすすめる。課題1および課題2のいずれも最終稿は2019年1月中旬を目途に提出する。(レポートの内容等が十分でない場合には草稿に対してアドバイスをこない訂正、加筆して最終稿となる。)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100 %	提出すべき4つの各レポートを100点満点で点数化し、その平均をもって最終評価とします。指定された最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は(原則的に)0点となります。
	平常評価	%	
履修者への要望	<p>レポートの作成にあたって文献を引用した場合には、それらの全てをレポートの巻末に示してください。その際に、本文に引用した文献(引用文献)と、本文には引用しなかったレポート作成に際して参考にした文献(参考文献)とは仕分けて示してください。 本文中の引用箇所はわかるように明示し、注などの形で引用文献との対応を示してください。 レポート課題と関連する文献は、基本教材、参考図書に記載のある文献なども検討して、学修の範囲、考察の内容を深める取り組みを期待します。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>①梶田勲一 『教育評価』(第2版補訂2版)(有斐閣, 2010年) ISBN: 978-4-64-111277-3 2,200円+税</p> <p>著者名: ②田中堅一郎(編) 教材名: 『産業・組織心理学エッセンシャルズ 改訂三版』(ナカニシヤ出版, 2011年) ISBN: 978-4-7795-0563-8 2,800円+税</p> <p>③高橋潔 『人事評価の総合科学 努力と能力と行動の評価』(白桃書房, 2010年) ISBN: 978-4-561-26538-2 4,700円+税</p> <p>①教育評価についての基本的専門書である。教育評価の概念, および学校場面での実践について論じている。 ②産業・組織場面での心理的側面についての概論書である。特に3章を指定する。 ③人事評価の視点から, 評価方法, 評価対象, 心的特性等についての基本的専門書である。</p>
参考図書	<p>大沢武志・芝祐順・二村英幸編『人事アセスメントハンドブック』(金子書房, 2000年) ISBN: 4-7608-2583-5 16,000円+税</p> <p>上里一郎(監修)『心理アセスメントハンドブック』(第2版)(西村書店, 2001年) ISBN: 978-4-89-013294-2 14,000円+税</p> <p>馬場昌男・馬場房子監修『産業・組織心理学』(白桃書房, 2005年) ISBN: 4-561-26439-6 3,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材1文献①は学校場面での教育評価を前提としているが, 個人の可能性を育むために全体を理解し支援するとの根本的な視点を理解する参考としてもらいたい。 基本教材文献②および文献③は心的特性である知能や性格の概要を紹介し, その測定方法である心理検査の概要, また産業・組織場面での応用を理解する基礎となる。詳しくは参考図書等を学修してもらいたい。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1文献①の序章から第4章までを熟読し, 各章の内容を要約して, 最後に教育評価が個人の可能性を育むとの視点から, その意義について考察しなさい。 留意点: 序章から第4章, および最後の考察は, それぞれ800字から1000字程度を記すこと。なお, 要約とは本文の一部をそのまま抜粋してつなげることではない。理解した内容を自分の文章として記すことである。心がけてもらいたい。</p>
レポート課題2	<p>基本教材1文献②の第3章, 文献③の第2章, 3章, 10章, 11章, 13章を熟読し, 1) 評価の対象, 2) 知能とはなにか, 3) 知能検査の概要, 4) 性格とはなにか, 5) 性格検査の概要, 6) 心理検査の妥当性と信頼性, 7) コンピテンシーとはなにか, について記し, 最後に, 心的特性を把握することの意義と課題について考察せよ。 留意点: 1) から7) および考察について, それぞれ1000字程度を記すこと。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名: ①田中堅一郎編, 前掲書, 2011年 教材名: ②高橋潔, 前掲書, 2010年 ③二村英幸『改訂増補版 個と組織を生かす キャリア発達の心理学』(金子書房, 2015年) ISBN: 978-4-7608-2392-5 2,400円+税</p> <p>基本教材2文献③はキャリア発達の概要が中心であるが, 特に9章人材マネジメントにおけるキャリア発達支援, 11章キャリア・アセスメントが参考となる。</p>
参考図書	<p>野口裕之・渡辺直登編著『組織・心理テストの科学』(白桃書房, 2015年) ISBN: 9784-561-26648-8 7,400円+税</p> <p>今城志保『採用面接評価の科学』(白桃書房, 2016年) ISBN: 9784-561-26659-4 3,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>代表的な評価方法を理解し, さらに人事評価の課題を考える。また, 行動を評価する方法を理解し, これらを人事諸制度での位置づけ, 有効に機能させる課題を考えることが大切となる。</p>
レポート課題1	<p>基本教材2文献①第3章, 文献②第5章, 6章, 8章, 9章, 12章を熟読し, 1) 相対評価法, 2) 絶対評価法, 3) 多面評価法, 4) 人事評価の諸問題, 5) アセスメントセンター方式, 6) 面接法, について記し, 評価方法の課題について考察せよ。 留意点: 1) から6) および考察について, それぞれ1000字程度を記すこと。</p>
レポート課題2	<p>基本教材2文献②第7章, 文献③9章を熟読し, 1) 目標管理制度, 2) キャリア支援の制度, 3) OJTとOffJT, 4) メンタリング, コーチング等を説明し, 5) これらの機能の相互関連を論じ, 個々の可能性を育む能力開発と個人の特性の評価, 把握, 理解, の意義を考察せよ。 留意点: 1) から5) について各1000字程度, 考察については2000字程度を記すこと。</p>